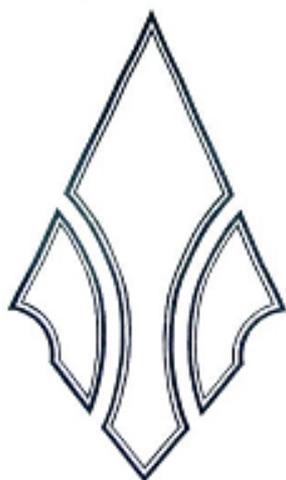


令和7年度
学習シラバス
〔第1学年〕



八王子市立鑓水中学校

国 語

<p>使用教材</p>	<p>【教科書】 ・伝え合う言葉 中学国語1(教育出版) ・中学書写(教育出版)</p> <p>【副教材】 ・よくわかる国語の学習1(明治図書) ・例文漢字1(浜島書店) ・新国語の便覧(秀学社) ・読み方レンジャー1(正進社) ・書初め用紙(手本付き)(文書館)</p>	<p>持ち物</p> <p>【通常授業】 ・教科書 ・ワーク ・例文漢字 ・国語便覧 ・ノート ・読み方レンジャー1 ・タブレット</p> <p>【書写の授業】 ・大筆・小筆・文鎮・硯・下敷・新聞・墨汁・ゴミ袋・半紙・2Bの鉛筆</p>
<p>学習の目標</p>	<p>(1)社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。</p> <p>(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を身に付け、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするができるようになる。</p> <p>(3)言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付ける。</p>	
<p>学習の進め方</p>	<p><学習の進め方></p> <p>(1)国語では、文学的文章(小説)、説明的文章(論説)、古典(古文・漢文)、短詩型文学(俳句、短歌、和歌、詩)、文法・漢字等の分野について学習する。</p> <p>(2)授業は、主に各クラスの教室で行う。場合によっては、図書室を利用する。</p> <p>(3)提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。</p> <p>(4)班活動は、課題に応じて、3～4人班、または5～6人班で意見交換活動、朗読発表、劇発表、意見発表等を行う。班員で建設的な意見を出し、話す力・聞く力を身に付けていく。</p> <p>(5)授業で学習したことや配られたプリントを見直す、ワークに取り組む等して復習をするとよい。</p> <p>(6)朝読書の時間や昼休みに読書をすることで想像力を広げる、新聞を読むことで見聞を広める等をするとよい。</p> <p>(7)学習した内容を、自分の経験や身の周りの生活と結びつけて考えたり、学習を通して興味や疑問をもった内容を調べたりして、理解を深めるとよい。</p> <p><注意すること></p> <p>(1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。</p> <p>(2)持ち物は忘れないようにする。</p> <p>(3)板書されたこと、気付いたこと等はノート等にまとめる。</p> <p>(4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞くようにする。</p> <p>(5)プリント、ワーク、クロムブックの課題等の提出は期限を守る。</p>	

学習計画

	月	学習単元	学習内容	
一学期	4	1 学びをひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・詩 ・随筆 ・小説 ・説明 ・文法 ・読書 ・話すこと、聞くこと ・書くこと ・漢字 ・情報メディアと表現 ・総合 (SDGs) 	
	5	2 論理を知る		
	6	3 世界をひらく		
	7	4 情報を得る		
二学期	8	5 古典にふれる	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 ・漢文 ・詩 ・説明 ・話すこと、聞くこと ・漢字 ・言葉 ・書くこと ・意見文 ・文法 ・書写 	
	9			
	10			6 豊かに想像する
	11			7 関係を捉える
	12	書初め		
三学期	1	8 考えを確かめる	<ul style="list-style-type: none"> ・説明 ・詩 ・小説 ・話すこと、聞くこと ・漢字 ・言葉 ・報告文 ・情報メディアと表現 ・熟語 ・書くこと ・漢字 ・文法 	
	2	9 表現を捉える		
	3			

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	提出物の記述内容 小テスト 単元テスト 定期考査
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を身に付け、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものになっている。	提出物の記述内容 発表等の内容等 小テスト 単元テスト 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付けている。	物語、説明文等の感想記述内容 学習の振り返りの記述内容 発表等の内容等

社 会

<p>使用教材</p>	<p>教科書・社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土(帝国書院) ・社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き(帝国書院) ・中学校社会科地図(帝国書院)</p> <p>副教材 ・ビジュアル歴史(東京法令出版) ・ビジュアル地理(東京法令出版) ・よくわかる社会の学習 地理1(明治図書) ・よくわかる社会の学習 歴史1(明治図書)</p>	<p>持ち物</p>	<p>筆記用具 授業プリント 教科書(地理・歴史) 資料集(地理・歴史) ワーク 地図帳 ファイル(地理・歴史各1冊) 色鉛筆</p>
<p>学習の目標</p>	<p>(1)世界の地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)世界の諸地域に関する様々なグラフを読み取り、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係に着目して、考察したり、判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)人類の出現から戦国時代の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(4)歴史に関わる事象の意味や意義に着目して考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p><学習の進め方></p> <p>(1)社会では、地理、歴史、2つの分野について学習する。社会の授業は週に3時間あり、歴史は週2時間、地理は週1時間で進める。歴史の学習範囲が終わり次第、地理の授業になる。</p> <p>(2)授業は、各クラスの教室で行う。</p> <p>(3)提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。</p> <p>(4)グラフの読み取りや様々な作業に対して多面的に観たり考えたりする意識をもつ。</p> <p>(5)他の人の意見と自分の意見や考え方の違いに気付き、様々な見方や考え方があることを知る。</p> <p>(6)授業で学習したことや配られたプリントを見直し、復習をする。</p> <p>(7)日々のニュースに注目し、学習内容と結び付ける意識をもつ。</p> <p><注意すること></p> <p>(1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。</p> <p>(2)持ち物を忘れないようにする。</p> <p>(3)板書されたことや友達の意見は配布されたプリントに書き込みむ。</p> <p>(4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。</p> <p>(5)プリントは配られたらファイリングし、なくさないように管理する。</p>		

学習計画

	月	学習単元(歴史分野)	学習内容(歴史分野)	学習単元(地理分野)	学習内容(地理分野)
一学期	4	歴史の捉え方と調べ方 古代国家の成立と東アジア	・歴史の流れと時代区分 人類の登場から文明の発生まで 東アジアの中の倭 中国にならった国家作り 展開する天皇・貴族の政治	・世界と比べた日本の地域的特色	・世界の姿 ・日本の姿 ・世界各地の人々の生活と環境
	5				
	6				
	7				
二学期	8	武家政権の成長と東アジア	武士の世の始まり 武家政権の内と外 人々の結びつきが強まる社会 大航海時代によって結び付く世界	・世界の諸地域	・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州
	9				
	10				
	11				
12	武家政権の展開と世界の動き				
三学期	1				・北アメリカ州
	2				・南アメリカ州
	3				・オセアニア州

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	諸地域の事象及び特色や歴史の流れを理解するとともに、調査や資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。	・定期考査 ・小テスト ・単元ワークシート 等
思考・判断・表現	多面的、多角的考察によって、課題解決に向けて公正に選択・判断する力や、思考・判断したことを説明したり、議論したりすることができる。	・定期考査 ・小テスト ・授業内文章問題 ・ディベート 発表(原稿内容含む) 等
主体的に学習に取り組む態度	学習内容に関心を持ち、より良い社会の実現を視野にそこで見られる諸課題を、学習内容を生かして主体的に追求・解決しようと粘り強く考えようとしている	・授業観察 ・単元ワークシート ・テスト振り返り ・ディベート 発表内容 等

数 学

<p>使用教材</p>	<p>教科書 未来へひろがる 数学1(啓林館) 副教材 数学レポート学習1(問題集)</p>	<p>持ち物</p>	<p>筆記用具 教科書 副教材 ファイル 定規 (のり、コンパス)</p>
<p>学習の目標</p>	<p>(1)数量や図形等についての基礎的な概念や原理・法則等を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p><学習の進め方> (1)1組は1クラス2展開(コースは「応用発展」、「基礎充実」)、2、3組は2クラス3展開(コースは「応用発展」、「基礎充実1」、「基礎充実2」)の習熟度別少人数授業を行う。 (2)授業は、各クラスの教室と第1学習室(3階)で行う。コース発表の用紙に記載するので、確認して、自分の教室に行く。 (3)授業の進め方は自由進度学習とする。 (4)数学では答えにたどり着くまでの過程が大切である。途中式は消さないようにする。また、自分の考えを大切にし、どのように考えたのか他の人にも説明できるようにする。 (5)1つの問題の解き方にいろいろな考え方がるので友だちの意見にも耳を傾ける。 (6)数学は似た問題を数多く解くことで、理解が深まる。問題集等を使って復習をする。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)配られたプリントは必ずファイルに閉じる。 (4)单元ごとに振り返りシート等の課題を出す。作成するときに困らないよう、大事だと思ったことはノートやワークシートに書き残す。</p>		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	1章 正の数・負の数	1節 正の数・負の数
	5		2節 正の数・負の数の計算 3節 正の数・負の数の利用
	6	2章 文字の式	1節 文字を使った式 2節 文字式の計算
	7		3節 文字式の利用 1節 方程式
二学期	8	3章 方程式	2節 方程式の利用
	9	4章 変化と対応	1節 関数
	10		2節 比例 3節 反比例
	11		4節 比例・反比例の利用
	12	5章 平面図形	1節 直線と図形 2節 移動と作図 3節 移動と作図の利用 4節 円とおうぎ形
三学期	1	6章 空間図形	1節 立体と空間図形 2節 立体の体積と表面積 3節 空間図形の利用
	2	7章 データの活用	1節 ヒストグラムと相対度数 2節 データにもとづく確率
	3	1年生のまとめ	

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	数量や図形等についての基礎的な概念や原理・法則等を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 課題の記述内容
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 課題の記述内容 レポート記述内容
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> レポート記述内容 ワークシート記述内容 課題への取組(目標設定や振り返り等) 学習振り返り等の内容

理 科

<p>使用教材</p>	<p>【教科書】 未来へひろがるサイエンス1(啓林館)</p> <p>【副教材】 ・理科の完全学習1年 ・理科 積み上げ1年</p>	<p>持ち物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・理科の完全学習 ・筆記用具 ・ノート ・ファイル ・chromebook
<p>学習の目標</p>	<p>(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験等を行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p><学習の進め方></p> <p>(1)理科では、生命、地球、物質、エネルギーの4つの分野について学習する。</p> <p>(2)授業は、各クラスの教室もしくは理科室で行う。連絡は先生から理科係を通して行う。</p> <p>(3)提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。</p> <p>(4)話し合い活動をする場面では他の人の意見を聞き、課題を多面的に観たり考えたりする意識をもつ。</p> <p>(5)理科室では、3~4人班での観察や実験を行う。安全かつ正確に行えるように、班員で協力して行う。</p> <p>(6)授業で学習したことや配られたプリントを見直し、復習する。</p> <p>(7)学習内容と日常生活の中で起こる様々な自然現象を結び付ける意識をもつ。</p> <p><注意すること></p> <p>(1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。</p> <p>(2)持ち物を忘れないようにする。</p> <p>(3)板書されたこと、気づいたこと等はノート・プリントなどにまとめる。</p> <p>(4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。</p> <p>(5)実験レポート、ワーク、課題等の提出は期限を守る。</p>		

学習計画

	月	学習単元	学習内容	
一学期	4	【生命】 ○自然の中にあふれる生命 ○いろいろな生物とその共通点 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類 【物質】 ○身のまわりの物質 ・いろいろな物質とその利用	・身のまわりの生物の観察 ・花のつくり ・種子をつくらない植物 ・子葉、葉、根のつくり ・植物の分類 ・物質の区別	・背骨のある動物 ・動物の体のつくりと生活 ・背骨のない動物 ・動物の分類 ・重さ、体積と物質の区別
	5			
	6			
	7			
二学期	8	・いろいろな気体とその利用 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化 【エネルギー】 ○光・音・力による現象 ・光による現象 ・音による現象	・気体の区別 ・物質のとけ方 ・濃さの表し方 ・溶質のとり出し方 ・光の進み方 ・光が通りぬけるときのようす ・レンズのはたらき	・物質のすがたとその変化 ・状態変化と温度 ・混合物の分け方 ・音の伝わり方 ・音の大小と高低
	9			
	10			
	11			
三学期	12	・力による現象 【地球】 ○活きている地球 ・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地	・力のはたらき ・力の大きさのはかり方 ・重さと質量 ・火山の噴火 ・マグマの性質と火山 ・マグマからできた岩石 ・日本列島の火山	・力の表し方 ・1つの物体に2つの力はたらくとき ・身近な大地の変化 ・ゆれの発生と伝わり方 ・地域の大地の変化
	1			
	2			

評価の観点と評価方法

	評価の観点及びその趣旨	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則等を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本操作や記録等の基本的な技能を身に付けている。	・実験レポート ・授業観察 ・ワークシート・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験等を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する等科学的に探究している。	・実験レポート ・ワークシート・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしている。	・授業観察 ・ノート等の記述 ・ワークシート・プリントの記述 ・学習の振り返り ・実験レポート

音 楽

<p>使用教材</p>	<p>教科書 ①中学生の音楽1(教育芸術社) ②中学生の器楽(教育芸術社) 副教材 ①コーラスフェスティバル(合唱曲集)(正進社) ②表現と鑑賞の資料(正進社) ③教科担任作成のプリント等</p>	<p>持ち物 ①音楽の教科書 ②器楽の教科書 ③コーラスフェスティバル(合唱曲集) ④資料集 ⑤ソプラノリコーダー ⑥ファイル ☆①～⑥を音楽袋に入れて持参</p>
<p>学習の目標</p>	<p>(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。 (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。</p> <p>【学習の進め方】 ①音楽の授業には、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の4つの柱がある。 「器楽」はソプラノリコーダーと和楽器(和太鼓、箏)、「創作」は基本となる音符や休符を理解し、リズムゲームを通してリズムを学習し、3年次に簡単な作曲をすることを目標としている。 ②授業は特別なことがない限り音楽室で行う。 ③その日の「学習の目当て」を理解し、一生懸命に取り組む。 ④ワークシートを使った授業では、書き込みの工夫等、どのように授業を受けていたかを評価する部分もあるので、意識して取り組む。 ⑤読み取り学習は、作者の思いや詩の理解、音楽を形づくっている要素を知覚し、自分の意見を文章で表現することを求めている。学習の前に楽曲の理解に努めることも大切なことである。 ⑥合唱におけるパート練習は、曲の完成だけでなく、パートやクラスの協力性や一体感に繋がるのでしっかり取り組む。 ⑦一生懸命取り組んで、1時間の授業の中で何ができたのか、課題は何なのかを点検表を通して振り返る。 ⑧「自分を表現すること」はとても大切で、評価の重点項目になっている。また、音楽の授業以外にも役立つことなので、積極的に取り組む。</p> <p>【注意すること】 ①授業に必要な持ち物は、特別なことがない限り変わらないので、忘れないように準備する。忘れた場合は、申し出て先生から借りる。 ②先生の話や指示をしっかり聞き、正しく理解して行動に移す。 ③提出物は期限を守って提出する。 時間を見つけて自分で取り組み、最後に答え合わせをする。 答え合わせした時に間違っていたものは赤で直し、空欄は赤で書き込む。 自分ができなかったところをはっきりさせて、後の学習に役立てる。 ④インターネットを利用した調べ学習等は、著作権に関してはもちろんだが、そのまま写して自分の感想にしたりすることがないように十分に注意する。</p> <p>★理解に役立つようオレンジ色のペンで書き込む場合は、上記を工夫する方法を考える。</p>	
<p>学習の進め方</p>		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞や旋律の流れを感じ取って、心を込めて歌う 音楽の基礎を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 校歌を覚えよう 「主人は冷たい土の中に」 楽典(演奏上の記号) 合唱形態
	5		
	6	<ul style="list-style-type: none"> 音楽と情景の関わり 心通う合唱 	<ul style="list-style-type: none"> 「春(第一楽章)」(ヴィヴァルディ)(鑑賞) 合唱コンクール(課題曲・自由曲)
	7		
二学期	8	<ul style="list-style-type: none"> 曲想や歌詞を生かした歌唱表現の工夫 日本の伝統音楽 音楽の応用 情景と音楽の関わり(心の歌) 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールに向けて2部合唱、3部合唱 箏曲「六段の調べ」(八橋検校)(鑑賞) 和太鼓(鑑賞) 楽典(音符・休符) 「赤とんぼ」
	9		
	10		
	11		
	12		
三学期	1	<ul style="list-style-type: none"> 詩と音楽との関わり 情景と音楽との関わり(心の歌) 曲想や歌詞を生かした合唱表現の工夫 創作活動 音楽の応用 器楽を楽しむ 日本の伝統芸能 世界の音楽と楽器 	<ul style="list-style-type: none"> 歌曲「魔王」(シューベルト) 「浜辺の歌」 卒業式に向けて 2部合唱、3部合唱 リズムゲーム(創作) 楽典(総まとめ、次年度に向けて) ソプラノリコーダー 日本の民謡、郷土の文化 アジアの諸民族 音楽と楽器 君が代
	2		
	3		

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や背景等と関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を歌唱、器楽、創作で身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察、内容の習得 実技(途中経過のチェック) 実技テスト 定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素等を知覚している。 特質や雰囲気を感じながら考え、どう表すかについて思いや意図をもったり、音楽の良さを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察、発言・記述の内容 ワークシート、読み取り学習の内容、工夫 実技(途中経過のチェック) 実技テスト 点検表(振り返り)の記述 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 他者に助言したり他者からの助言を参考にしたりしながら身に付けようとしている。 課題に対して適切に粘り強く取り組み提出、終了している。 顔の体を表情をよくし、体を使った表現にしよう、グループで話し合っ工夫しているか。 自分の演奏の中で、「できたこと」「次回の課題」がしっかりと振り返られている。他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 提出物の内容 ワークシートの内容、工夫 点検表(振り返り)の記述内容

美術

<p>使用教材</p>	<p>教科書 美術1(日本文教出版) 副教材 美術資料/東京の美術(秀学社)</p>	<p>持ち物</p>	<p>・美術バッグ(教科書、資料集、スケッチブック、アクリルガッシュセット) ・筆記用具</p>
<p>学習の目標</p>	<p>(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 (2)自然の造形や美術作品等の造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働き等について考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 (3)楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p><学習の進め方> (1)美術では、「表現」と「鑑賞」の学習がある。「表現」は自分で感じたことや考えたことを色や形にして、作品として表すことである。「鑑賞」は、作品をじっくりと見て、良さや美しさを感じ、自分の言葉で表すことである。 (2)授業は「美術室」で行う。持ち物の連絡等は授業でも伝えるが、基本的には美術係を通して行う。 (3)作品制作(表現)では課題の条件を理解し、自分で感じたことや考えたことをもとに構想を練り、制作する。 (4)制作の前や途中に、参考作品や友達作品を鑑賞することがある。また、制作のまとめとして最後にお互いの作品を鑑賞する時間を設ける。 (5)授業内で仕上げられるように見通しをもつ。 (6)美しいものや機能的なものの良さに気づき感動する心を大切にする。生活の全てが「美術」につながっている。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席すること。 (2)1時間1時間、集中して取り組むこと。積み重ねが大事である。 (3)作品の評価は、完成作品と途中作品で行う。未完成でも期日で評価する。計画時間内で完成させること。 (4)友達を大切にするように、作品も大切に扱うこと。 (5)机や道具はきれいに片付けること。</p>		

学習計画

	月	学習單元	学習内容
一学期	4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆で出来る表現を学び、身近なものを描く 色の三要素、色相環、補色等を学ぶ 三原色や色相環を学ぶ 制作した作品の鑑賞
	5	鉛筆デッサン	
	6	色彩学 定期考査	
	7	色彩学 作品鑑賞	
二学期	8	レタリング	<ul style="list-style-type: none"> レタリングの基本、ポスター制作の基本を学ぶ さまざまな書体を学ぶ (明朝体・ゴシック体・勘亭流・ポップ体等) オリジナルのレタリング絵文字を考えて制作する 野菜をよく観察して色鉛筆でスケッチする 印象派の作品の鑑賞 制作した作品の鑑賞
	9		
	10	レタリング絵文字	
	11	作家の作品鑑賞 定期考査	
	12	野菜のスケッチ 作品鑑賞	
三学期	1	野菜の塑造	<ul style="list-style-type: none"> 野菜や果物を見て、粘土を使ってリアルに再現する 制作した作品の鑑賞
	2	野菜の塑造 定期考査	
	3	作品鑑賞	

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、明暗、質感等が感情にもたらす効果や、造形的な特徴等を基に良さや美しさ、印象等を全体のイメージで捉えることを理解している。 線の強弱や水加減等の鉛筆や絵具の生かし方等を身に付け、意図に応じて工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 作品（途中作品含む） アイデアスケッチ等の下絵 定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものを見つめ感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさ等を基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫して構想を練っている。 造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 作品（途中作品含む） アイデアスケッチ等の下絵 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造的の喜びを味わい構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 授業中に制作した作品や提出物について記述した制作カード（鑑賞の場合は、振り返りカード）

保健体育

<p>使用教材</p>	<p>教科書 新編 新しい保健体育(東京書籍) 資料集 図解中学体育(あかつき)</p>	<p>持ち物</p>	<p>体育着 体育館履き 各種目に応じた持ち物</p>
<p>学習の目標</p>	<p>①各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解する。 ②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p>ランニング 体操 挨拶 授業の流れやめあてを確認 実技指導 片付け まとめ 解散</p>		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動 短距離走・リレー マット運動 ネット型 健康な生活と疾病の予防 運動やスポーツの必要性和楽しさ 4泳法
	5	陸上競技 器械運動	
	6	球技 保健	
	7	体育理論 水泳	
二学期	8	球技	ベースボール型
	9		
	10	陸上競技	中・長距離走
	11	武道 保健	剣道 心身の発達と心の健康
12	体育理論	運動やスポーツへの多様な関わり方	
三学期	1	ダンス	現代的なリズムのダンス
	2	球技	ゴール型
	3	保健 体育理論	心身の発達と心の健康 運動やスポーツの多様な楽しみ方

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	運動の意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解し、知識及び技能を関連付けながら運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	学習カード 授業プリント 実技試験 定期考査 授業内観察
思考・判断・表現	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組み方や工夫をしているとともに、それらを他者に伝えている。	学習カード レポート 授業プリント 定期考査 話合い 発表 授業観察
主体的に学習に取り組む態度	健康・安全に留意しながら、最善を尽くして学習に取り組もうとしている。公正、協力、責任、一人一人の違いを大切にしようとする等の意欲が見られる。	学習カード 活動の様子 行動の観察 安全に留意している

技術・家庭

<p>使用教材</p>	<p>教科書 新しい技術・家庭</p> <p>副教材 技術・家庭総合ノート「家庭分野」</p>	<p>持ち物</p>	<p>筆記用具</p> <p>教科書</p> <p>技術・家庭総合ノート「家庭分野」</p>
<p>学習の目標</p>	<p><技術分野></p> <p>(1)技術の進展や環境との関係について考えることができる。</p> <p>(2)材料の特徴と利用方法を知ることができる。</p> <p>(3)材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用することができる。</p> <p><家庭分野></p> <p>(1)生活の営みに係わる見方や考え方ができる。</p> <p>(2)衣服の働きや素材の特徴を知り、生活を豊かにする作品を製作することができる。</p> <p>(3)衣食住等に関する実践的な活動を通して生活を工夫し創造する資質・能力を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p><学習の進め方></p> <p><技術分野></p> <p>(1)1年生では材料と加工の分野について学習し、作業が中心となる。</p> <p>(2)授業は、技術室(木工)で行う。</p> <p>(3)技術室では、3～4人班での作業を行う。安全かつ正確に行えるように班員で協力する。</p> <p><家庭分野></p> <p>(1)1年生は、衣生活・食生活の分野の基礎的な内容を学習し、実習も基本的な内容を重視して行う。生活の中での自立につなげていく。2年生で応用へと深めていく。</p> <p>(2)授業は、教室、被服室、調理室で行う。</p> <p>(3)実習は、3～4人班で行う。安全に留意し実習を進める。教え合い、学び合うことを取り入れ、学習を展開する。</p> <p>(4)配られたプリントは、ファイルに保管しワークとともに定期考査前には見直し、復習をする。</p> <p><注意すること>(共通)</p> <p>(1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。</p> <p>(2)持ち物を忘れないようにする。</p> <p>(3)板書されたこと、気付いたこと等はノートやファイルにまとめる。</p> <p>(4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。</p> <p>(5)作品やプリント等の提出は期限を守る。</p>		

学習計画

	月	学習単元(技術分野)	学習内容(技術分野)	学習単元(家庭分野)	学習内容(家庭分野)
一学期	4	○生活と技術 ○木材の特徴 ○木材加工品の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの木材を知る ・合板の強さを知る ・さしがねとのこぎりによる切断 	○「自分の成長と家族・家庭生活」 ○生活を豊かにするために 「ハーフパンツの製作・完成」 ○持続可能な衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・成長の振り返りと3年間の学習の見通し ・基礎縫い ・ミシンの扱い方 ・ハーフパンツ作り ・衣服の働き ・TPOを踏まえた着方
	5				
	6	材料取り			
	7				
二学期	8	部品加工	<ul style="list-style-type: none"> ・かんな削り ・ヤスリがけ ・仮組立 ・接合部のけがき ・下穴あけ ・くぎ打ち 	○衣服の選択・手入れ ○食事の役割と中学生の栄養の特徴 ○中学生に必要な栄養・献立作り ○調理の基礎技能	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の衣文化 ・衣服の手入れ・よりよい衣服計画 ・バランスの良い食事 ・調理室の使用法 ・包丁の使い方と切り ・栄養素の種類と働き ・中学生に必要な栄養素
	9				
	10	組み立て			
	11				
	12				
三学期	1	仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・素地みがきと面取り ・塗装 ・自己評価 ・作品のクラス内展示会 	○日常食の調理 ○調理と食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・調味料の働きと特徴 ・調理実習
	2				
	3				
	3				

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	生活や技術に関する知識や工具の使用法について理解し、安全に正しく使用する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、作品 ・プリント、ノート ・授業観察 ・定期考査・小テスト
思考・判断・表現	身の回りの生活や社会からの課題を学び得た知識や技能を活用して主体的に課題を設定し、解決策を表現する等課題を解決する力が身に付けている。学習過程の場面を捉え、自分の考え等を道筋を立てて、分かりやすく説明出来る。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・作品 ・プリント、ノート ・作業記録 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	生活や技術に関する知識・技能を身に付け、生活を充実向上するために主体的に実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの記述 ・プリント、ノート(目標設定と学習の振り返り等) ・授業観察

英 語

<p>使用教材</p>	<p>教科書 NEW CROWN1 (三省堂)</p> <p>副教材 ジョイフルワーク① キホンの夏 英語① Wプリント E-NAVI</p>	<p>持ち物</p>	<p>筆記用具 教科書 ノート ファイル ジョイフルワーク① E-NAVI</p>
<p>学習の目標</p>	<p>(1) 外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働き等を理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面, 状況等に応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で簡単な情報や考え等を理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>学習の進め方</p>	<p>《教科書》 教科書は, 9つのLessonに分かれており, 1つのLessonが3または4つのPartに分かれている。それぞれのLessonごとに新出の文法事項, 単語を学ぶ。また, 本文の理解を通して, 異文化理解を深めるとともに, 自国との違い等にも触れていく。</p> <p>《ノート》 授業内で学習した項目をノートにとる。また, 自分で自分の弱点を把握し, 伸ばすために個人でノートの使い方を工夫する。</p> <p>《パフォーマンス》 各レッスンで学ぶべき会話表現を使い, スピーチやインタビューを行う。</p> <p>《すらすら英会話》 各レッスンで学ぶべき会話表現を1枚のプリントにまとめ, それらの文を会話形式で繰り返すことによって, 新出の文に慣れ親しむとともに, ペア活動での会話表現の基礎を身に付ける。</p> <p>《ジョイフルワーク》 授業で習った内容の理解を深めるために使う。特に定期考査に向けての自学用で, 個人で進めていく。</p>		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	Lesson1	新しい友だち be動詞と一般動詞/疑問詞what
	5	Lesson2	あこがれの人物 助動詞のcan
	6		
	7	Lesson3	大切なもの be動詞(3人称)と人称代名詞/疑問詞who
二学期	8	Lesson4	夏休みの予定 過去形
	9		
	10	Lesson5	ブラウン先生の家族 3人称単数現在形/疑問詞whose
	11	Lesson6	アメリカの学校生活 現在進行形/疑問詞which
12			
三学期	1	Lesson7	スポーツの本質 いろいろな疑問文
	2	Lesson8	日本発見の旅 過去進行形
	3	Lesson9	災害への備えと非常食 未来形

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等を理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・リスニングテスト ・小テスト、単元テスト ・スペリングコンテスト ・ワークシート
思考・判断・表現	<p>獲得した知識、技能を用いて、自分なりに表現したり、伝え合ったり、概要や要点を捉えたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト、単元テスト ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト (プレゼン、インタビュー、スピーチ) ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	<p>自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する等自らの学習を調整しながら、主体的に学ぼうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み ・ワークシート(目標設定と学習の振り返り等) ・パフォーマンステスト